

「知の地域創造を支える中央図書館を目指して」

講演・基本計画（素案）説明 要点録

講師：常世田 良氏（立命館大学教授・図書館本館再整備基本計画検討委員会委員長）

中島図書館本館整備担当課長

◆ はじめに

千葉県のパブリックコメント等でご意見をいただければと思う。

千葉県のパブリックコメント等でご意見をいただければと思う。基本計画は、柳田邦男先生が委員長としてまとめた基本構想を具体化したもので、基本構想の実現のためにはどうすればいいのかということをお示しするものであると同時に、設計者に対しては、設計段階のプロポーザル選考の際の仕様書的なものとなる。専門的で分かりづらい部分もあるが、詳細に書く必要がある。わかりやすくまとめた概要版も用意してある。また、今は素案の段階なので、パブリックコメント等でご意見をいただければと思う。

委員長として、多摩市民は図書館を大切に思っている人が非常に多いとひしひしと感じている。

また、通常このような委員会の委員は、あて職的になるものだが、今回の検討委員会の委員はとても熱心で、密度の高い議論を重ねる委員会となった。

◆ 基本計画への経緯

基本計画は、基本構想を元にしており、その具体化が大きな目的である。

基本構想の委員会は、柳田先生を中心に、とても緊張感のある委員会であった。ひとつひとつのことを深く掘り下げて議論ができた。

◆ 第一章 多摩市の図書館のめざすもの

○ 多摩市立図書館のいま

基本計画素案（以下、「素案」と言う）3 ページ。「多摩市立図書館のいま」について。

多摩市のサービスレベルは、全国でもトップレベルである。但し、これからの 10 年、20 年、30 年を考えると市民のニーズ、自立、地域課題の解決等をクリアするためには少し弱い。中央図書館を中心として、多摩市全体の図書館システムを見直そうということ。

図書館に関しては、日本は欧米と比べると後進国であり、そんな中で多摩市は次世代のニーズに対応しようとしている。ただ、中央図書館的なものがなく、地区図書館に資料が分散されており、専門的な資料も足りない。何かを調べようとしたら、いくつかの図書館を回らないといけない状況である。

また、職員に関しては、もっと専門職が多い自治体もあるが、多摩市はどうするのか。

現在の本館は、学校跡地であり図書館としてはどうなのか、という問題もある。

○ 基本構想の理念をふまえて

素案 4～7 ページあたり。基本構想のキーワードは「知の地域創造」であった。単なる文化・教養ではなく、市民ひとりひとりが自己実現をし、その結果として地域が活性化していくというイメージ。

「今日の夕飯は何にしようか」から「人間はどのように生きていけばいいのか」まで、あらゆるレベ

ルのニーズに応えられる図書館をめざす。複数の図書館の要としての中央図書館を整備することにより、分館や地域館の機能も向上していく。そこで、重要なのは3要素のマネジメント、「資料」「職員」「施設」である。

その実現のためには、どうすればいいのかというのが6ページ、7ページに挙げられている。特に、「資料世界」、「図書館員」、「図書館施設」、「市民利用者」、この見出しの部分を見ていただくのが、一番わかりやすいかと思う。「資料世界」に関しては、当分は本が中心となっていくと思うが、同時に電子書籍やデータベース等の提供をする「ハイブリッドライブラリー」も進んでいこう。本の貸出は手段であって、重要なのは資料の中身、情報である。それを支えるのが、専門的な職員である。そしてそれを円滑に行う場としての図書館の施設がある。これらのレベルを全体的に上げていくことが今回の方針であると理解している。

「図書館員」に関しては、図書館ネットワークにおいて、分館は「水道の蛇口」と考えてもらうのがいいのではないかと。情報という水が蛇口から流れてくる。図書館というと、建物で完結しているように考えられがちだが、ネットワークの出口である。奥に情報の貯水池があり、いかにして情報という水を引っ張ってきて、そして小さくても確実に情報を提供する蛇口があり、その蛇口を円滑に流すようにするのが専門的な職員。

また、図書館施設を「第3の場（サードプレイス）」と考えることについては、図書館が非常に重要なスペースであり、市民同士の交流の場。単なる賑わい創出ではなく、そこで市民が出会い、新しい活動を生むということ。それを「広場性」という言葉で表現している。

素案8ページ、具体的な中央図書館の役割について。「知の地域創造」のセンターとしての中央図書館ということ。一箇所に大量の情報が蓄積されることにより、市民の皆さんの知的欲求を満たす可能性が高まる。「量的拡大は質的变化をもたらす」というテーゼがあるが、図書館においても、本が一定量、貯まってくると、本と本の関係性が生まれる。入門書から専門書まで、奥行きが生まれると、物事を理解するのに非常に支えになる。私の経験になってしまうが、浦安では、利用が激的に増えてきたのは、開架室が30万冊を超えたあたり。30歳代から50歳代までの現役世代の利用が増え、土日になると、成年男性の利用が多くなった。

多様な世代の居場所としての空間については、「ラーニングコモンズ」という言葉があるが、多様な世代の人たちが、自然とふれあって、人間関係が生まれ、新たな活動が発生する。それは、公民館ではないか、という意見もあるが、一般的な公民館はそのようにはなっておらず、単なる部屋貸しになってしまっている。

素案9ページ。基本構想では、多摩市の図書館協議会で議論されてきたことも反映されている。

➤ 土浦市立図書館、ゆいの森あらかわ、安城市図書情報館の写真を投影

最近開館したこれらは、偶然だが似ており、大量の開架と人と人との出会いの場を積極的に提供している。多摩市が目指すものに近いものがある。

素案10ページ。利用の現状の数字を挙げている。サービスレベルはトップレベルにあるが、最ト

ップではない。多摩市であれば、利用がもう少し伸びてもおかしくないと思う。

◆ 第二章 「知の地域創造」のための図書館

素案 14 ページ。「市民一人ひとりから支える」として〈課題解決型の支援をめざす〉といったところが分かりやすいと思う。日本の図書館は暇がないから行かないとなるが、アメリカは高学歴者層の 70 パーセントが図書館の利用者であって、暇が無くても必要があるから行くようだ。図書館というと文化・教養的なイメージがあるが、もっと実務的なものも含めてもいいのではないか。

素案 15 ページ。パルテノン多摩との連携について。パルテノン多摩の改修後に予定する機能について書いている。

素案 16 ページ。「地域の情報ハブとしての図書館」。従来型の本や雑誌ではなく多様なメディアを使用する。それを専門的な職員が支え、市民は、多様な情報を手に入れることができるようにする。従来、縦型の情報になっていたものに、横串を通そうということも書かれている。ひとつの問題を解決するために、その関連情報だけで解決しようとしてきた傾向が日本にはあるのではないか。それを既に解決されている全く別の分野とか、メディアとか、様々なものを横串にして市民に提供するということを目指す。

素案 17 ページ。課題解決型サービスということで、文科省の報告書、あるいは図書館関連の報告書、研究結果でも表れているが、地域課題の解決を主に情報で支援しようということ。ビジネスを支援する、行政情報を提供する。例えば、パブコメをやる際には、両方向の意見を図書館で提供するなどのこと。また、図書館が行政に情報を提供することにより、公務員の生産性を高めたり、間違いを起こさないように支援するなど含まれる。それから医療関係、少しでも市民の健康に貢献することができる。同じ病気でも様々な治療法があるが、それを選択するのは、患者本人であり、その情報を図書館が提供する。法律の情報も同じ。学校に関しては、子どもたちに対してもだが、先生に対しての支援も行える。多摩市のサービスレベルは高いので、既に行えていることもあるが、さらにレベルを上げるためにはこのようなことが必要となる。

◆ 第三章 あたらしい中央図書館の基本計画

○ 中央図書館の機能とサービス計画

素案 18 ページから。まずは「職員」について。高度なサービスを実施するには、専門的な司書の養成が不可欠である。中央集権的に管理するということではなく、職員全体のレベルを上げていき、分館を支えていくということ。

「資料」については、今は、分館に分散してしまっている。専門的なものは中央館に置き、また体系的に用意する。さらにそこには専門的な職員がいる。必要なものが的確にそろっている環境を目指す。新しいメディアを用いた課題解決型を目指すということに関しては、電子書籍やデータベース、あるいは人工知能を用いたレファレンスもあるだろう。情報を集めることに関しても、そのような技術を取り入れていくこと等も視野に入れていく。

素案 19 ページ目。大きな中央図書館ができれば、本の保存もできる。数年に 1 回程度しか使われ

ない資料は中央図書館に置き、分館は新鮮な資料を置く。中央図書館には、新鮮な資料だけではなく、数年に1回程度の利用頻度の資料を集めることにより、体系的な管理ができる。

アメリカの公共図書館では、3Dプリンターを設置しているようなところも普通になってきている。

市民ひとりひとりが自己実現をし、地域活性化を支援するのが図書館の役割だと考えるなら、3Dプリンターを図書館に設置するのもおかしいことではない。

○ 資料計画

素案 22 ページ以降が資料計画。ざっくりとだが、開架で 25 万冊から 30 万冊は確保したい。30 万冊程度の資料が、体系的に分かりやすく、市民の前に提示されるイメージ。

○ 敷地計画 ※中島図書館本館整備担当課長 説明

素案 26 ページ。敷地確定に至る経緯について。基本構想の段階では、桜美林大学多摩アカデミーヒルズ用地の一部が候補地として想定されていた。学校法人桜美林大学から、現在の本館との用地交換の申し出があり検討していた。

その後、平成 29 年 5 月から市議会にパルテノン多摩・周辺施設整備等特別委員会が設置され、パルテノン多摩との合築や連携等が検討された。その中で、学校法人との用地交換に関しては、反対が多いということが確認された。理由としては、駅から遠いということなど。

このような経緯があり、多摩市としては、基本構想の理念を守りつつ、より駅から近く、市の所有の土地で購入費がかからない、そしてパルテノン多摩と近くて連携もしやすいということで、多摩中央公園の北西の角地を候補地とすることを提案した。

それを受けて、平成 30 年 1 月に特別委員会で候補地として賛成多数であることが確認され、市長から教育委員会へ整備予定地変更の協議があり、多摩中央公園の北西角地を整備予定地として決定した。

基本計画検討委員会では、4 つの方針を確かめた。1 つは、多摩ニュータウン計画の造成による傾斜地を活かしつつ平面を確保すること。2 つ目は、ひと動線とつながり、周辺環境に開かれた施設を目指すこと。3 つ目は、周辺とのネットワークということで、パルテノン多摩とか中央公園とのつながりを活かして相乗効果が生まれるようにすること。4 つ目は、公園の緑環境と景観を活かして、その中に溶け込むようにすること。

素案 27 ページ。平面図と立体的な図を載せた。車道のレベル、レンガ坂のレベル、公園の大池等で高さの違いがあり、それぞれの場所から入れるように入口を造ることも可能なのではないかと。図の中で地下 1 階や 2 階と表記しているが、あくまでもイメージであり、設計の段階で決定していく。

素案 28 ページ。人や車がどういう動線をもって図書館と接するのかということや、公園の環境を守るということ。一旦、木を切るということもあるが、建設後、公園と溶け込むためには、新たな場所に植え直すこと等の必要性が書かれている。

○ 施設計画

素案 30 ページ以降。具体的な施設のイメージが提示されている。

30 ページは細かく空間の中身について書かれているが、基本的に今までの図書館の歴史の中で必要といわれているものは盛り込んでいる。この中で、市民活動支援部門は比較的新しい概念のもの。ラーニングcommons等を含んだ場所である。

31 ページは空間の機能と役割について。これはこういう平面図にしろというわけではない。あくまでも概念図で、このような機能の相関関係を担保してほしいということ。

32 ページ以降は諸機能の内訳を細かく説明している。ただ、この面積もあくまで目安である。例えば、32 ページの①の一般成人分野と②の新聞・雑誌分野に関して、これまでは、分ける図書館が多かったが、雑誌でも専門的なものは関連する一般の分野に配架した方が便利だという場合もある。これを混配というが、そのような工夫をして、この①と②を一緒にして設計することも可能かもしれない。

33 ページの⑤、静粛読書室。昔の図書館は全体が静かでなければいけなかったが、市民の様々な活動を支援するなど、図書館全体がある程度の音を出してもいいようにすると、逆に静かな空間を担保しなくてはならない。大学図書館では取り入れられている。

35 ページの⑬の野外読書テラスは、基本構想でも掲げられていたもので、ゆっくりと読書ができる空間。公園の緑を感じられるスペースを是非ともつくりたい。

36 ページは広場系でフリースペース等の市民が交流する空間。

39 ページは人口規模の似ている図書館との比較。

40 ページは自然エネルギーの活用や、バリアフリー・ユニバーサルデザイン、耐久性の問題、フレキシビリティについて。図書館が電子書籍等の新たなメディアを使用するようになれば、図書館の本棚を減らし、自由空間を増やすなどもあるかもしれない。フレキシビリティは、これからの 30 年を考えると重要。

○ 運営と管理計画

素案 42 ページ以降。ICT や AI の活用も考えていかなければならない。ロボットによる書架整理なども可能となるかもしれない。24 時間、予約資料を受け取れるシステムは現在でも導入しているところもある。

➤ メーカーズスペース、ラーニングcommonsの先進的事例の紹介として、アメリカの図書館や塩尻市立図書館本館の写真を投影

◆ おわりに

膨大な計画書なので、限られた時間の中では雑多な説明になってしまったが、多摩市の図書館が優れた図書館になるように、微力ながらこれからもお手伝いさせていただきたい。ご清聴ありがとうございました。